

佳作

## ぼくの挑戦

鹿児島県 鹿児島市立中洲小学校五年 永吉 駿悟

少し恥ずかしがり屋で緊張しやすい。これがぼくの性格。今までの学校生活や授業の発表などは自分から進んで何かをすることはほぼありませんでした。そんなところを変えたいという気持ちが五年生になる前の春休みにでてきました。

ぼくには、三つ上のお兄ちゃんがいる、何事にも積極的に頑張っています。その姿に少しでも近づけるには高学年になる五年生がいい機会だと思いました。

まず、自分を変える一歩として総務委員会に入ろうと決めました。総務委員会は学校の中心となって学校をよりよくするために活動する委員会です。お兄ちゃんも総務委員会でみんなの前に出て児童総会を盛り上げたり、色々な係をして学校の中心となり活動をしていたことを思い出したからです。さらに、

総務委員会に入ったら発表の仕方を教えてくれるかもと思い、総務委員会へ挑戦することに決めました。決まっただけからは、いつ前に出て司会・進行ができてもいいように、毎日の音読も大きくハキハキとした声を意識して出すようにしました。リモート児童集会で司会をすることになり、緊張はしましたが、最後までやりとげることができました。

そして、次の挑戦は、宿泊学習の係で児童代表の言葉を言うことです。決まっただけからも、宿泊学習の活動中もずっとあいさつのことが気になって仕方ありませんでした。そのたびに、大丈夫！できる！と自分を励ましていました。本番前に決めた言葉を何度も確かめ、心でくり返しました。

「児童代表、永吉駿悟さん。」

先生の声が聞こえた時、ぼくの緊張はピークに達しました。みんなの前に立つと、一瞬で頭は真っ白になりました。考えたことが全部消えてしまったのです。どうしようと焦りましたが、覚えた文を思い出すより、宿泊学習を思い出しながら、何とか話すことができました。終わると、ほっとしたのと同時に悔しさで胸がいっぱいになりました。涙も少しこぼれました。もう少しくまぐできたはずだったのに。

今までの自分と変わって成長できるはずだったのに。とても悔しかったです。そんなぼくに、先生やお友だちが、立派だったよと声をかけてくれましたが、その日は悔しさでいっぱいになりました。

でも、去年のぼくなら失敗が怖くて挑戦もできなかったかと思うようになりました。一度や二度の挑戦で成功できることはないと思いました。最初から何でもできるように見えたお兄ちゃんも失敗をしながら、少しずつ成長していったのではないかなと思います。まだまだ、これから失敗をして、悔しい思いをしていくことのくり返しだと思うけれど、一つ一つ苦手なことへも挑戦して、いつかなりたい自分に少しでも近づけるように努力していきたいと思えます。